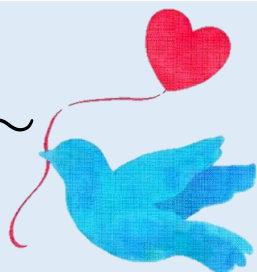


～患者様の声～



K・Yさん
74歳 男性



◆2018年10月 循環器内科受診

2～3年前から山登りや散歩時に息が詰まるような感じがあったのですが、10月に入ってから回数が増えお風呂や階段昇降時に肩甲骨の間に締め付けるような、息苦しい感じがありました。また自分で脈を測ると脈が飛ぶことがあったためクリニックを受診しました。クリニックの先生からは他の病院を紹介されましたが、友人のお嬢さんが放射線技師として勤務していたのと、心臓専門医がいる病院が良いと思い池上総合病院を受診しました。循環器内科を受診すると大動脈弁閉鎖不全症と診断され、カテーテル治療をおこないました。

◆心臓血管外科へ 須藤先生との出会い

カテーテル治療で症状は改善したのですが、その後のフォロー中に左室拡大が進行してきたため循環器内科の先生から心臓血管外科の須藤先生を紹介されました。大動脈弁置換術という手術を受ける必要がありました。大変な手術だと思い、悔いのないよう妻と北海道旅行を楽しみました。当初不安がありましたが、自分でも手術のことをインターネットで色々調べ、何より須藤先生の人柄の良さで安心して手術をお願いできました。実は今月に1度、かかりつけ医として開業された須藤先生のクリニックでお世話になっています。

◆15時間におよぶ大手術 急性大動脈解離

2020年11月17日に大動脈弁置換術の手術をして、無事に11月30日に退院したのですが、12月7日に胸が立っていられないほど痛くなり救急車をよびました。急性大動脈解離でした。東邦大学医療センター大森病院に搬送され、15時間にもおよぶ手術を受けました。3日間意識がなかったそうで、目を開けてICUの天井を見たとき「このまま死ぬんだろうな」と思いましたが、白衣が目に入ったときに「助かったんだ！」と思いました。この時に命を助けてくださったのが今、池上総合病院でお世話になっている大熊先生です。

◆3度目の心臓手術

実は救急搬送される前に撮ったCTで腹部にも動脈瘤があることがわかっていました。大きさは37mmでした。早期の手術を希望して2021年7月2日に腹部大動脈ステントグラフト内挿術を大熊先生にいただきました。私は大熊先生を天才だと思っているんです。若い頃、競輪の選手だったので中野浩一選手を知っているのですが、彼は天才でした。天才はなりたくてもなれないんです。やっぱり素質を持っている。そして努力もしている。大熊先生も素質を持っていて、矢尾先生とチームで池上総合病院にきて、24時間受け入れてふたりでたくさんの数の症例をこなしているでしょ。これからもたくさんの人を助けて欲しいと思いますよ。

◆最後に

池上総合病院で出会った須藤先生、大熊先生、矢尾先生は大好きな先生で私の宝です。月に1度須藤先生にかかり、年に1回大熊先生に診ていただき、命を託せる大事な宝です。今後、生体弁を使っているので80～85歳の時に再度手術をして交換しなければならないのですが、もちろん大熊先生にお願いする予定です。私はどこまでも大熊先生を追っかけて行きますと言っているんです。今このように日常生活をおくれて、魚釣りを楽しめるのも先生方のおかげです。これからもよろしくお願い致します。